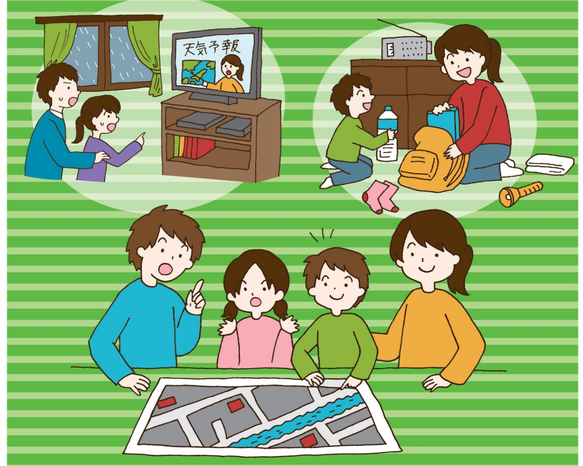
まつやま 洪水ハザードマップ

小野川版



意識と準備が命を守る！

松山市

わが家の防災メモ

ハザードマップを使ってわが家の防災メモを完成させましょう！
地図を確認して、該当するところにチェックを記入しましょう。

自宅の災害リスク	
浸水深	□浸水無し □0.5m未満 □0.5m以上～3.0m未満 □3.0m以上～5.0m未満 □5.0m以上～10.0m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	□氾濫流の想定区域内 □河岸浸食の想定区域内 □想定区域外
浸水継続時間	□12時間未満 □12時間以上～1日未満 □1日以上～3日未満 □3日以上～1週間未満

避難の方法 このハザードマップを参考にして、避難の方法を確認しましょう。

避難の方法	□屋内待機 □垂直避難（＿＿＿階に避難） □立ち退き避難

避難場所 自宅から避難場所までの経路や時間を実際に歩いて確認しましょう。

避難場所		自宅～避難場所までの時間	

【メモ】避難時の持ち出し品などについて、記入しておきましょう。

非常時持ち出し品チェックリスト 下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせたものを用意しましょう。

貴重品	□現金 □印鑑 □健康保険証・預金通帳※コピー可
水・食料	□飲料水 □携行食・非常食※ビスケット・缶詰など
医療・衛生	□服用している薬 □救急医療品 □歯ブラシ・口腔ケア用品 □マスク □消毒液 □液体せっけん □簡易トイレ □生理用品 □入れ歯・眼鏡など
安全対策	□ヘルメット・防災ずきん □スリッパ □軍手 □ホイッスル
道具類	□携帯電話・充電器 □携帯ラジオ □懐中電灯 □電池 □時計 □携帯カイロ □ロープ
衣類	□上着（防寒着）・下着・靴下 □雨具（レインコート）
生活用品	□ウエットティッシュ・ティッシュ □タオル □ゴミ袋・ポリ袋 □レジャーシート

家族の名前	連絡先

緊急連絡先	電話番号
病院（　　）	
ガス会社	
電気会社	
水道	

いざというときの連絡先 松山市内の市外局番は「089」です。

- □消防（火災・救急・救助） （市外局番ナシ）119
- □警察（事件・事故） （市外局番ナシ）110
- □松山市消防局 926-9200
- □松山市災害対策本部（設置時） 987-7000

火災・救急病院の問い合わせ（テレホンサービス）
□火災 925-6622 □救急病院 925-6633
災害用テレホンガイド（松山市消防局）

まつやま 洪水ハザードマップ 小野川版
松山市 総合政策部 防災・危機管理課
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL.089-948-6793 FAX.089-934-1813
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/

令和2年（2020年）9月発行

洪水から身を守る

洪水発生のメカニズム

洪水は大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。

大雨によって川の水が増え、水かさが上がり始めます。

堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水のカに堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた場所は一気に広がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市部は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいため、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

低地の冠水
- ●低地や道路のアンダーパス※では冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。

地下への冠水
- ●地下が浸水すると・・・
  ①水圧でドアが開かない ②一気に水が流れ込む ③外の様子が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

中小河川の増水氾濫
- ●都市部の中小河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
- ●誤って転落しないよう、大雨の時には近づかないでください。

過去の浸水
- ●過去に浸水があった所は、大雨の時、再び浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。
- ●過去の浸水（浸水実績）については、松山市のホームページで確認できます。

※アンダーパスとは、立体交差で掘り下げ式になっている道路のことです。

2次元コードで簡単アクセス！
松山市の浸水履歴 検索

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量（mm）	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に強い雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	傘をさしていても濡れる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車の運転		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じ、ブレーキがきかなくなる	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度でも、長く降り続くときは注意が必要。	側溝や下水道、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、土砂災害警戒区域等では避難の準備が必要。都市部では下水道から雨水があふれる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

※表に示した雨量と同じであっても、降り始めからの総雨量や地形・地質などの違いによって、被害の様子は異なることがあります。

防災気象情報の種類と内容を知る

災害発生の危険性を5段階でお知らせします

災害発生のおそれが高まった場合、市や気象庁などから様々な情報が発表されます。これらの情報に注意し、段階に合わせた適切な行動をとりましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報（松山市が発令）※1	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急）※2（松山市が発令）	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など、避難に時間のかかる人とその支援者は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始（松山市が発令）	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 など（気象庁が発表）	必ずしも、この順番で発表されるとは限らないのでご注意ください。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報（気象庁が発表）	

※1 可能な範囲で発令されるものであり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。
※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合などに発令されるものであり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。

気象庁からの注意報・警報

大雨・洪水注意報 ▶ **大雨・洪水警報** ▶ **大雨特別警報**

大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

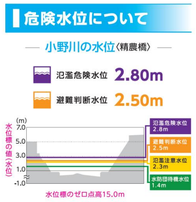
大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することが重要です。

危険水位について

小野川の水位（精鼎橋）

氾濫危険水位 2.80m
避難判断水位 2.50m



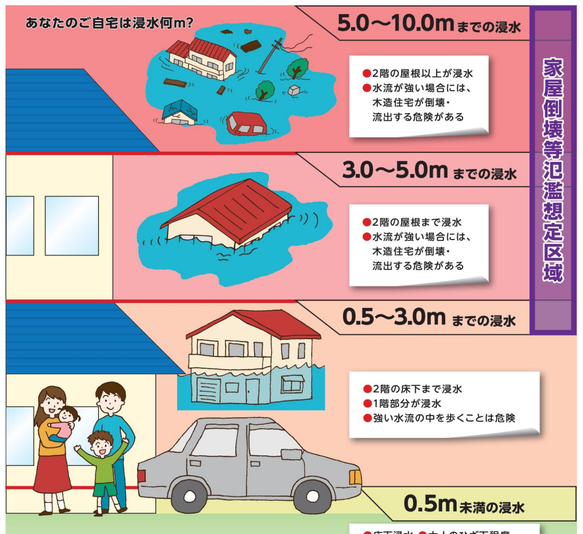
氾濫危険水位：河川が氾濫するおそれのある水位
避難判断水位：避難情報の発表の目安となる水位
氾濫注意水位：河川の氾濫の発生を注意する水位
水防団待機水位：水防団が待機する目安となる水位

マイ・タイムラインを作りましょう。

マイ・タイムラインとは、大雨や台風のときに、自分がとる標準的な防災行動を時系列的に整理したものです。地域の災害リスクを知り災害が迫ったときの避難先やとるべき行動を事前に確認しましょう。

詳しくは、松山市のホームページへ。
まつやまマイ・タイムライン 検索

浸水の深さを確認



「浸水ナビ」で詳しい浸水リスクを確認しましょう

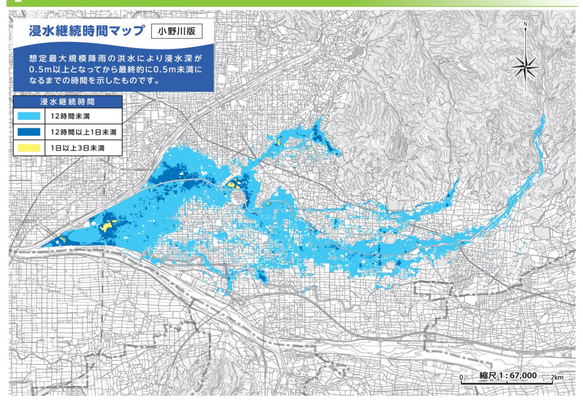
地点別浸水シミュレーション検索システム「浸水ナビ」で、
- どの河川が氾濫した場合に浸水するか
- 河川の決壊後、どれぐらいの時間で氾濫した水が到達するか
- どれぐらいの時間、浸水が継続するか

など、ピンポイントの詳細な浸水リスクが確認できます。
自分が住んでいる地域に、どのような被害が想定されているのか、事前に確認し、適切な避難行動につなげましょう。

詳しくは、ホームページへ。
浸水ナビ 検索

※準備が整い次第、小野川の浸水シミュレーションも掲載される予定です。

浸水の継続時間を確認



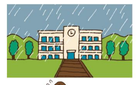
いざというときの避難行動を確認

自宅が浸水する区域内にある。
- はい → 自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）内にある。
  - はい → **立ち退き避難** 洪水が発生した場合、自宅にとどまることは危険です。近隣の安全な場所や頑丈な建物へ移動しましょう。
  - いいえ ↓
- いいえ ↓ **屋内待機** むやみな外出は控えましょう。

自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）内にある。
- はい → **立ち退き避難**
- いいえ ↓

浸水の深さが建物の最上階の床の高さを上回る。
- はい → **立ち退き避難**
- いいえ ↓

浸水が長時間（3日以上）継続する区域内にある。
- はい → **立ち退き避難**
- いいえ ↓ **垂直避難** 自宅の上階に移動しましょう。



非常時に備え、水・食料は1週間程度の備蓄をしておきましょう。
※マスクや消毒液、液体せっけんなども準備しておきましょう。

事前の確認 いざというときのために、家族や地域で浸水リスクなどを確認しておきましょう。

1 マップで浸水の深さを事前に確認しましょう
ハザードマップで自宅周辺の浸水の深さや家屋が倒壊・流出する危険性を確認しておきましょう。

2 避難先を事前に決めておきましょう
浸水の深さに応じた避難行動や、避難先を決めましょう。また、避難先までの経路と時間も確認しておきましょう。

避難とは「難」を「避」けること
状況に応じた避難行動をしよう
※安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。

適切な行動 情報を確認し、落ち着いて事前に決めておいた避難行動をとりましょう。

3 早めに避難をしましょう
命を守るため、早めの避難を心掛けましょう。
海岸・河川・水路などには絶対に近づかないようにしましょう。

4 情報を基に避難の判断をしましょう
避難の決定は、様々な情報から決断しましょう。特に避難情報は命を守る重要な情報です。

状況に応じた避難行動をとる

避難場所は、小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。

大雨・洪水時の避難のポイント

ひざ上まで水につかると歩きにくくなります
冠水している道路を通るのは危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界です。

ロープにつながって
子どもなどは大人とロープで体をつなぎましょう。

足元に注意
水中の溝などに注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路はできるだけ真ん中を歩きましょう。

車は使わず、歩いて避難
あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。

子どもやお年寄りを安全に
小さな子どもや足の不自由なお年寄りは背負います。ベビーバスを活用する方法もあります。

危険なところは避ける
狭い道、がけや川のそばは避けましょう。垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。

その他、避難のときに注意すべきこと

- 自宅に、避難先・安否状況のメモを残す。

避難するときの服装

- ヘルメットや防災ずきんをかぶる。
- 首でも長袖、長ズボンを着用する。
- 長靴は水が入ると動きづらくなるので避ける。水中でも脱げにくく歩きやすいのも軽び良い。
- 軍手、手袋を着用する。
- 非常時持ち出し品はリュックに入れて背負う。

特に注意が必要なところ

地下空間
- ●地上の様子が分からないため、逃げ遅れる可能性があります。
- ●地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。
- ●流れ落ちる水で階段は上がれなくなります。
- ●水が20cm程度たまると、流れ込む水圧でドアは開かなくなります。

アンダーパス（地下道）
- ●鉄道や道路の下をくぐるところは路面が低く水がたまりやすいので、大雨の際は通らないようにしましょう。
- ●60cm程度の水位で車のドアは開かなくなるので、車が止まったら直ちに脱出しましょう。
- ●緊急脱出用のハンマーを車内に備えておくと、万一の際、安心です。

車（運転中）
- ●水深30cmを超えると、多くの車はエンジンが停止します。浸水などの危険を感じたら車を路肩に移動させましょう。
- ●浸水してエンジンが止まった車は、むやみにエンジンをかけると危険です。
- ●万一、車が止まった際は、シフトレバーをニュートラルにして、車体を手で押して移動させます。

河原
- ●周りが急に暗くなったり、雷が聞こえたりしてきたら、急激に増水するおそれがあるので、すぐに川から離れましょう。
- ●自分がいる場所が晴れていても、上流で雨が降っていると下流でも急激に増水するおそれがあるので気象情報をこまめに確認しましょう。

避難情報などの伝達、入手方法

松山市では、様々な方法で避難情報などを発信しています。
様々な情報の入手方法を知っていれば、いざというときにも役立ちます。
日ごろから確認して、自らの命は自らが守りましょう。

1 防災行政無線
市内284ヶ所の屋外スピーカーから災害・気象情報をお知らせします。
放送後48時間以内は、テレホンサービスで放送内容を確認できます。

テレホンサービス
☎089-986-7755
☎089-997-1193 /中島 （松山・北条）

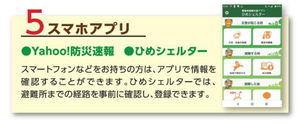
2 広報車 市有車両や消防車両によるマイク放送をします。

3 テレビ・ラジオ
- ●避難情報や避難所開設情報は、テレビのデータ放送でも確認できます。
- ●手回し式のラジオがあれば安心です。
- ●愛媛CATVでは、「お知らせチャンネル121」で、市からの情報を自動で繰り返し読み上げます。

操作方法（NHK0場合）
❶テレビのリモコンの「dボタン」を押す。
❷「防災・生活情報」を押す。
❸「避難情報」「開設避難所」を押す。

4 メール配信
- ●緊急速報メール・エリアメール
  気象庁が発表する緊急地震速報・津波情報や市が発表する避難情報などを対象エリアにいる携帯電話に一斉送信します。事前の登録は不要です。
- ●モバイル松山消防（事前登録が必要）
  地震・津波、気象注意報などの災害情報を電子メールでお知らせします。
  登録用メールアドレス：mty@mpx.wagmap.jp
- ●愛媛県防災メール（事前登録が必要）
  登録用メールアドレス：bousai.ehime-pref@ehime-pref.ktaiwork.jp

5 スマホアプリ
- ●Yahoo!防災速報 ●ひめシェルター
  スマートフォンなどをお持ちの方は、アプリで情報を確認することができます。ひめシェルターでは、避難所までの経路を事前に確認し、登録できます。



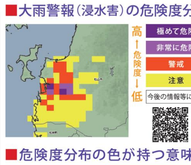
6 SNS・ホームページ
- ●松山市ホームページ
- ●松山市防災情報Facebook
- ●松山市防災情報Twitter
- ●松山市公式LINE

Facebook・Twitterでは松山市からの情報をシェアしたり、リツイートしたりすることで情報を拡散できます。

川の水位情報
河川に設置されている通常水位計や危機管理型水位計で観測した最新の河川の水位情報が、パソコンやスマートフォンで確認できます。また、河川監視カメラの映像も確認できます。非常時の避難行動などに活用してください。

詳しくは、ホームページへ。
川の水位情報 検索

■大雨警報（浸水害）の危険度分布



■洪水警報の危険度分布

■危険度分布の色が持つ意味と行動などの例

注意	警戒	非常に危険	極めて危険
今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。（警戒レベル1相当）	安全確保行動をとる準備をし、早めの行動を心掛ける。（警戒レベル3相当）	河川氾濫などの状況も確認し、速やかに立ち退き避難や安全確保行動をとる。（警戒レベル4相当）	重大な災害が発生している可能性が高い極めて危険な状況。（警戒レベル4相当）